

会社概要 (2020年6月30日現在)

商号	株式会社リブセンス (Livesense Inc.)		
所在地	東京都品川区上大崎2-25-2 新日黒東急ビル 5F		
設立	2006年2月8日		
資本金	236百万円		
従業員数	正社員 277名、臨時従業員 113名		
役員	代表取締役社長	村上 太一	
	社外取締役	淡輪 敬三	
		安川 新一郎	
	常勤監査役	江原 準一	
	社外監査役	尾崎 充	
		片山 典之	

コーポレートサイトのご案内



最新情報はWebサイトで
ご確認ください

<https://www.livesense.co.jp/>

株式の状況 (2020年6月30日現在)

発行可能株式総数	96,000,000株
発行済株式数	28,148,800株
株主数	6,299名

・大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
村上 太一	13,696,700	48.65
桂 大介	2,698,000	9.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,390,300	4.93
株式会社リブセンス	571,020	2.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	556,300	1.97
株式会社SBI証券	472,700	1.67
吉川 直樹	444,100	1.57
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	250,100	0.88
岩崎 優一	152,000	0.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	144,700	0.51



LIVENSENSE

LIVENSENSE LIVE #18

2020年12月期(第15期)上半期

株主通信

株式会社リブセンス

(東証1部:6054)

主要TOPICS

はたらくを、発明しよう。

これまで

新型コロナウイルス感染症の拡大は、オフィス、通勤、会議、会食など、あらゆるシーンに影響をもたらしました。リブセンスでは今年の1月までオフィス出社が主流でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、2月中旬よりすべての従業員を対象にリモート勤務を実施しています。様々な環境整備の取り組みなどにより、リモートでも効率を落とさず事業運営ができること、また、従業員の9割以上がリモート勤務を活用した働き方を希望していることがわかりました。

大きく環境が変わり、世の中に唯一の「正解」がない中で、生産性や成果を最大化していくため、私たちは新たによりよい働き方・会社のあり方を模索していく必要があります。

これから

新しい働き方を検討・トライアルする

「はたらくを、発明しよう。」プロジェクトを始動
従来のような画一的な働き方ではなく、個人・組織の特性やライフスタイル・ライフステージに合わせた柔軟な働き方を実現することで、個人と組織のパフォーマンスを最大化し、社会から支持され続ける会社を目指します。



直近での実施内容

ハイブリッド型の勤務形態へ

リモート勤務を出社と並ぶ基本の働き方とし、ハイブリッド型の勤務形態に移行します。個人やチームの裁量でリモート勤務と出社を使い分けられるようにしていきます。



新しい働き方と連動したオフィスへ

ハイブリッド型の勤務形態とすることで、オフィス保有の価値が相対的に低下・変化することが考えられるため、東京オフィスは一部を解約。対面でのコミュニケーションの場を本社オフィスに集約します。

また、これまでの固定席からフリーアドレスへと移行し、出社をする人たちが効率的・機動的に業務を行えるようにします。

新しい働き方と連動した各種手当の設計

リモート勤務の準備費用、通信費や光熱費の補填として、従業員に一時金を支給しました。今後は出社が前提ではなくなることから、通勤手当や住宅手当などの制度を見直し、恒久的な手当も含め総合的に検討します。

今後も新しい働き方の実現に向けて、引き続き検討を続け柔軟に変化していきます。

社長インタビュー

代表取締役の村上より、リブセンスの戦略、株主の皆様からいただいたご質問についてお答えいたします。

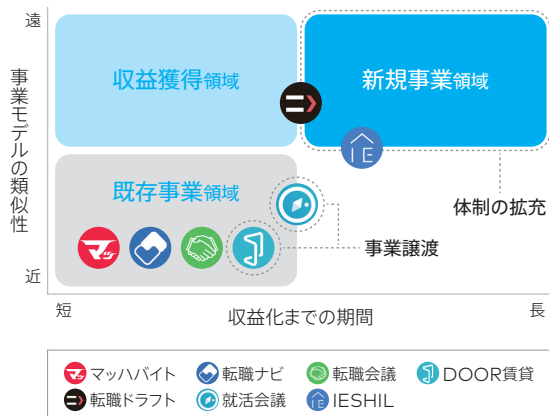
Q. 当期の方針と進捗について教えてください。

当期は「コーポレートビジョン『あたりまえを、発明しよう。』追求のための事業ポートフォリオの最適化を加速」をテーマに掲げ、既存事業・新規事業それぞれの強化によるポートフォリオの最適化と組織の進化を進めてきました。これは、リブセンスを成長基調に乗せるための継続した取り組みです。

既存事業では、しっかりと利益を出せる体質を作ることを目指しています。既存事業で得た利益を既存・新規それぞれに投資することで、継続的な事業投資のサイクルを確立します。新規事業においては、従来とは異なる事業モデルを立ち上げることでリスクの低減と成長を同時に目指しています。その過程においては当然多くの失敗も起きますが、事業の立ち上げにおいてはトライを繰り返すことが重要です。

ここ数年は事業の選択と集中により、少数の事業に集中できる体制の構築と新たな成長事業に振り向ける人員の確保を進めてきました。当期は「就活会議」の譲渡、新規事業部門への人員配置など、ポートフォリオの最適化が進んでいます。既存事業においても、新型コロナウイルス感染症の拡大前は「マッハバイト」が前年比150%程度の成長をするなど、一定の成果が出てきました。新規事業では複数の事業案のテストマーケティングが進行中です。

事業ポートフォリオ (2020年進捗)



Q. 下期の方針について教えてください。

上期の方針をさらに推し進め、既存事業の収益力強化と新規事業の立ち上げ、組織の進化に取り組んでいきます。

新規事業はさらに体制を拡充し、開発のスピードと成功確率の向上を目指します。組織面においては、採用難易度の高いIT業界で従業員が「リブセンスで働く意義」を見出せるような取り組みを続けるとともに、企業ブランディングの強化にも着手します。

既存事業は新型コロナウイルス感染症の影響を受けていますが、状況が終息したタイミングでしっかりと成長軌道に乗せられるよう、状況把握と中長期の事業価値向上に向けた施策を進めていきます。



代表取締役社長
村上 太一

Q. 新型コロナウイルス感染症の影響について教えてください。

リブセンスの主要な事業領域である人材業界では、アルバイト・正社員ともに企業の採用抑制が起きており、募集案件数の大幅な減少等の影響が出ています。これにより、上期は約4億円の営業赤字となりました。

一方で、「新しい働き方」や「新しい生活様式」など、かつての常識の変化はチャンスでもあります。

財務面において当面の懸念はありませんが、事態の終息する時期や中長期的な影響はまだ見通せないため、機会・脅威の両方を見極めて機動的な対応を行っていきます。

Q. 自己株式の取得について教えてください。

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、自己株式を74万株取得しました。

具体的な活用方法や時期は現時点では未定ですが、M&Aや人材の確保など、様々な用途を検討した上で企業価値の最大化に向け活用していきます。

リブセンスの戦略

》当期方針

コーポレートビジョン「あたりまえを、発明しよう。」追求のための事業ポートフォリオの最適化を加速

全体進捗

- 2020年7月1日付にて就活会議をポート株式会社に譲渡し、事業ポートフォリオの最適化がさらに進展
- 将来の事業成長に向けた投資資金の確保や当社が注力する事業への人材配置が進む

注力ポイント

既存事業の収益力強化	● 第2四半期は新型コロナウイルス感染症の影響により、業績は期初予想を下回る ● 「マッハバイト」は営業・マーケティング強化により、上半期YoY5.2%の増収 ● 新型コロナウイルス感染症の動向・環境変化を注視し、機動的に施策を実行
新規事業の立ち上げ	● 専任組織の規模を拡大 ● 複数の新規事業案のテストマーケティング・プロトタイピングを実施中
社会から支持され続ける会社となるための持続的な変化	● 従業員自身がリブセンスのあり方を考え再定義する「経営デザインプロジェクト」の取り組みが評価され、第9回 日本HRチャレンジ大賞にて「人材マネジメント部門 優秀賞」を受賞



業績ハイライト

売上高 **2,354**百万円 (前年同期比 25.5%減)

営業利益 **▲403**百万円 (前年同期比 ▲525百万円)

経常利益 **▲406**百万円 (前年同期比 ▲590百万円)

親会社株主に帰属する四半期純利益 **▲504**百万円 (前年同期比 ▲630百万円)

POINT

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、企業の採用活動縮小や不動産の内見自粛等により、減収減益
- DOOR賃貸の事業譲渡により減収
- マッハバイトは第2四半期は減収となるも、上半期増収を実現